

・| 記者の視点
うつ病対策

人々にも経済にもメリット

岡崎 明子 名古屋報道センター



一生のうち15人に1人がかかるとされる病気なのに、国は十分な支援や対策がない。これが、日本のうつ病患者が置かれている状況だ。

生活面「欧州の安心・心を癒やす」の企画で、欧州各国の心の病対策を取材した。英

国では心理療法を望む全患者に、無料で治療を提供してい

た。オランダでは、休職した従業員に科学的根拠に基づく復職を支援。デンマークでは心の病の予防策として職場環

境の整備を進めていた。

各国に共通するのが、心の病対策は国民と国家、双方にとつてメリットがあるという考え方だ。特に働き盛りの場

合、心の病に陥ると、仕事の能率低下や休職、時には失業につながる。結果として労働生産性が低下し、失業手当金

の支給が増える。心の病による経済的損失についても、各國で試算しており、英国では年間120億円（約1兆8千億円）としている。

一方、日本のうつ病対策は

自殺防止策の環として実施

されているが、欧州のような

大々的な取り組みではない。

患者数の統計は医療機関の受

診者に限られ、欧州のように

医療機関にかかっていない人

も含めた患者数をベースに検

討する政策は探っていない。

また、患者の治療や長期休職

にともなう経済的損失の試算

もない。

最近、米ノースエスタン

太が、面白い研究結果を発表

した。

日本を含む世界29カ国を

「個人主義」と「集団主義」

に分けた結果、最も集団主義

が強い東アジアに住む人は約

80%がうつ病になりやすい遺

伝子を持っているにもかかわ

らず、うつ病の発症率は少ない。

これに対し、個人主義の

政策に早急に本腰を入れる必

%なのに、発症率が高いといふ内容だ。

研究者は、

重んじる集団主義が

緩衝

材

となりうつ病を防いで

いる、と推定している。

今回の取材で、欧米の個人

主義をかいだ見る機会があつ

た。「心の病の予防に先進的

に取り組んでいる」というデ

ンマークの幼稚園に具体的な

内容を聞くと、「29分間のラ

ンチ時間に、同僚同士が気軽に

に話す」という答えが返って

きて驚いた。日本では当たり

前のことも、わざわざ制度化

しなければならないのだ。

グローバル化の進行とともに

に、若者の気質も変わり、日

本でも個人主義が広まっている

。日本でもうつ病の受診者

が急激に増えている一つの原

因かもしれない。

英國の保健省の担当者は言

う。「政策導入の費用と、そ

の費用対効果の試算がなけれ

ば、この取り組みはなかつた

かもしれない」

経済不況は、心の病に陥る

人を増やす。日本も心の病対

策に早急に本腰を入れる必

要があるだろう。